

平成29年度第1回津島市地域公共交通会議議事録

1 開催日時

平成30年2月15日（木） 午後2時から3時40分まで

2 開催場所

津島市役所 3階 市長公室

3 出席者

別紙「平成29年度第1回津島市地域公共交通会議出席者名簿」のとおり

4 議事

- (1) 巡回バスの運行実績報告について（報告）
- (2) 巡回バス停留所の名称変更について（協議）
- (3) 巡回バスの運行ルートの見直しの検討について（協議）
- (4) 高齢者の運転免許証自主返納促進事業について（報告）

5 会議資料

- 資料1 津島市巡回バス「ふれあいバス」ルート図（平成26年7月改正）
- 資料2 津島市巡回バスの利用状況と運行経費について
- 資料3 平成29年度ふれあいバス利用促進のための取組について
- 資料4 平成26年7月改正時から現在までの要望・意見一覧
- 資料5 ふれあいバスの停留所の名称変更について
- 資料6 ふれあいバスに関するアンケートの実施について
- 資料7 津島市巡回バスの運行ルート等の見直しの検討について（スケジュール案）
- 資料8 ふれあいバス（津島市巡回バス）アンケートのお願い
- 資料9 運転免許証自主返納促進事業について
名鉄バス路線図（2017年10月）

6 議事内容

【主な意見・質疑等】

- (1) 巡回バスの運行実績報告について（報告）

【事務局】

- 資料1から資料4について、利用状況、運行経費、利用促進の取組、市民等からの要望・意見を説明した。
(資料に記載のない説明内容)
 - ・ 平成29年度は、利用者数の増加から、収支率は、若干良くなる見込みだが、運行委託料が増額し、事業費自体が大きくなっているため、市の負担額としては、増額となる。

- ・ Aコースは、平成27年度から28年度も減少しており、減少傾向にある。
- ・ Aコースの乗降車数は、路線後半の停留所である図書館あたりから、乗車数より降車数が少なくなっている。これは、津島駅から乗車した場合の目的地までの所要時間が長くなることが関係していると思われる。これについて、利用者数減少との関係を分析していきたい。
- ・ 永和駅北口の利用者数については、特に降車数が増えているので、今後も経過を注視したい。
- ・ 乗降車数を施設別でみると、ヨシヅヤ本店の利用者が前年度同時期と比較して、全体で1,000人弱、10%以上の増加となっている。
- ・ ヨシヅヤ本店の乗車数と降車数を比較すると、降車数が1,600人ほど多く、ヨシヅヤ本店から帰る際は、バス以外の方法で帰宅する人が多数いることがわかった。市内のタクシー事業者である名鉄西部交通さんにヨシヅヤ本店タクシー乗り場の利用状況を聞いたところ、平成29年度4月から12月末時点で、740回の配車があり、ヨシヅヤ本店からタクシーに乗るお客さんは多いとのことであった。このことから、行くときは、バスで、帰りはタクシーという方も多いのではないかと考える。
- ・ 市民病院については、乗車数6.8%、降車数11.8%の減少となっているが、原因は分析中である。津島駅から病院までの路線が重複する名鉄バスの利用状況とふれあいバスの利用状況を比較しながら分析する必要があると考えているので、利用状況についての情報提供いただくよう名鉄バスさんによりしく願います。
- ・ 平成26年7月のルート改正直後には、時刻についての混乱があり、今までの時間帯に目的地に行けなくなったため、何時に運行してほしいという、時刻の要望が多かった。
- ・ 一方、平成29年度は、ルートに関する要望がほとんどで、以前から要望のある市北西部の大縄地区、津島駅西の天王通り、昨年度も本会議でご意見いただいた西愛宕町、それから北東部の葉苺町など、現在の運行において、停留所がない地区から、停留所の設置や移動手段の確保についての意見・要望がある。

○ 意見質疑等

【構成員】

- ・ Cコースの5月、6月の利用者と7月の車いす利用者が突出して多い理由はあるのか。

【事務局】

- ・ 理由は特定できていないが、5月、6月は、ヨシヅヤ本店と蛭間小学校南の利用者が増えた。蛭間小学校南では、定期的に利用される方が増えたと考えている。
- ・ 7月の車いす利用者が多い理由は、名鉄バス津島営業所に確認したところ、毎日乗られる方がいたとのことであるが、なんのために利用していたかまでは、把握できていない。

【構成員】

- ・ 巡回バスの利用者数は、全体でみると増えたり、減ったりでおおよそ横ばいという状況である。
- ・ 29年度においては、全体的には増えているが、Aコースについては、若干減って

苦戦しているのので、利用者数が減っていることの分析をしていただいた方が良い。

- ・ 他のコースもマイナスが大きいところがあるので、要因を分析した方が良い。
- ・ Dコースについては、金柳町の利用者が多いという話があった。江南住宅口も2倍近い200人以上の増加となっており、潜在的な需要が見込まれる。こういったところにPRをかけると利用促進が効果的に行えるのではないかと考える。
- ・ ヨシヅヤ本店のタクシー乗り場を調査いただいたことの説明があった。ヨシヅヤ本店のタクシー乗り場は、利便性が高く、行きは、バスで、荷物がある帰りは、タクシーを使うことは十分考えられることで、こういった利用者が多い施設で、公共交通の利用促進をPRしていく中では、タクシーを含めて考えていただくと良いと思っている。
- ・ 資料3の③校外学習の移動手段として、ふれあいバスを利用していただく中に、エコモビの観点を取り入れ、県と協力している点はいいと思う。バスを利用したことについて、子どもや教員にアンケートを行って感想を聞いたりすると良いと思うが、その辺はどうか。

【事務局】

- ・ 来年度以降は、子どもや先生に感想などを聞くアンケートを実施し、参考にしていきたいと考えている。

【構成員】

- ・ こういったところで感想や意見を聴き、良い案や事業改善を実施し、その後の動向を把握するということがモビリティ・マネジメントにつながるのので、是非お願いしたい。
- ・ 津島市にとっては、名鉄バスさんの路線も非常に重要になると思うので、情報提供にご協力いただいて、また、このような会議でも情報を共有しながら、一緒に考えていきたいと思うのでよろしくお願いします。

(2) 巡回バス停留所の名称変更について（協議）

【事務局】

- 資料5について、停留所名称変更に関する説明をした。
- 意見質疑等

【構成員】

- ・ 高校やアルテ津島の跡地はどのようになるのか参考までに教えていただきたい。跡地利用が目印になる施設であれば、その名前を付けるとわかりやすいと思うがどうか。

【事務局】

- ・ アルテ津島の跡地は、現在の駐車場側の跡地にYストアが、建物側の跡地には、車のディーラーができるという話を聞いているが、定かではない。施設ができるとしてもまだ先になりそうなので、一旦は別の名称を付け置く必要があると考えている。
- ・ 清林館高校の跡地については、まだ正式に決まっていないと聞いている。

【会長】

- ・ 本来であれば、おっしゃられたように施設名等にした方がわかりやすいと思うが、今のところそれらしい施設がないため、町丁目名と駅の東側にあるということで津島駅東に変更させていただきたいと考えている。

【構成員】

- ・ このようなバス停名称を決定する際に他市町が行っている戦略的な手法として、バス停名称に商業施設の名前を付けることは、宣伝効果がとても高い。今回のように名称を変えることにより、色々経費を要することになるので、施設名を採用することにより、賛助金等を得て経費負担を減らすという事例もあるので、参考にすると良いと思う。

【構成員】

- ・ アルテ津島さんから北側に歩いて1分半ぐらいのところに商業施設があるが、その名称を使うというのはどうか。

【事務局】

- ・ 北側の施設名は、アクロスプラザ津島といい、使うことは検討したが、その知名度は高くないようで、それならば、津島駅東の方が皆さんに伝わるという判断をした。

【構成員】

- ・ あまり名前の知名度は、高くない。

【構成員】

- ・ 「これを機会に知名度を上げていきますよ。」という、これを宣伝に使ってもらうことで、取り込むという方法も考えられるが、他に考えがあるなら良い。

【構成員】

- ・ 清林館高校は、どこに移転をするのか。

【事務局】

- ・ 移転先は、愛西市で、高校の最寄駅は藤浪駅となるため、路線から外れることになる。

【会長】

- ・ それでは、この案のとおり、バス停の名称変更を進めてよいか。

【構成員一同】

- ・ 異議なし

【会長】

- ・ この案のとおり、名称変更を進めるので、よろしく願います。

(3) 巡回バスの運行ルートの見直しの検討について（協議）

【事務局】

- 資料6から資料8について、市民のニーズ等を把握するために実施するアンケート調査の実施概要、見直しの検討のスケジュール案、アンケート素案について、一括で説明した。
 - ・ 平成31年2月から予定するバス検討委員会及び地域公共交通会議を同時期に記載しているのは、バス検討委員会で出た検討事項について、地域公共交通会議で専門

的な視点からご意見をいただき、検討を進めていくことを想定しているためである。

- ・ このスケジュールは、現段階での案であり、ルートを見直した場合の運行開始を平成32年7月からと見込んでいるが、検討委員会の議論の進捗状況等によっては、多少ずれることも見込んでいる。

【会長】

- ・ アンケート調査を実施するということである。平成26年7月には、磯部先生や藤田会長さんに尽力いただき、大幅なルート改正を行った。現在は、大分落ち着いた状態ではあるが、3年半を経過し、利用者のニーズを把握するために、アンケート調査を実施するものである。
- ・ 利用実績の分析やアンケートの結果次第では、ルートの改正が必要となるかもしれない。そうなった場合は、検討委員会を開催していくという考えでいる。

○ 意見質疑等

【構成員】

- ・ 先ほどの利用者数の説明の際に乗車数と降車数に差があり、差分は、タクシーや、名鉄バスを利用しているかもしれないという仮説があったが、アンケート内容にそれを確かめることができるような項目を加えるのも良いと考える。

【構成員】

- ・ 郵送用アンケート5ページ目Gの運賃に関する項目に、「無料」の項目があるが、無料の方が良いと考える人が多くなり、そこに意見が引っ張られるような気がする。運賃を無料することを考えていないのであれば、省いた方が良く思う。

【事務局】

- ・ 運賃を無料にすることは、考えていないため、選択肢から「無料」を省くことにする。

【構成員】

- ・ 郵送用アンケートの対象人数が1,200人であり、多くの場合、回答率は40%、多くても50%ぐらいである。600人分の回答数というのは、どうかと思う。
- ・ このようなアンケートを行う場合、市民への依頼文に市長の直筆の署名を用いると回答率上がるという実績がある。

【事務局】

- ・ 市長の直筆の署名については、検討する。

【構成員】

- ・ 平成24年度にアンケート調査を実施した際にその結果に基づき、何かを変えたということはあるか。

【構成員】

- ・ アンケートは、永和駅北口への運行や利用率の低い停留所の廃止の検討の参考にした。検討の中では、大縄町にバスを導入してほしいという意見は、非常に強い意見があったことが印象に残っている。
- ・ 検討委員会を実施すると皆さん自分の地区にバスを走らせてほしい、近くにバス停をつくってほしいという意見が多く出る。しかし、全部に答えていくことは難しいので、徐々にやっていくよう話あったが、なかなか議論が進まなかった。

- ・ 前回の検討では、バス停の位置についての意見が一番多かった。

【事務局】

- ・ 今、お話しいただいたとおり、検討委員会での検討のためにアンケートを実施したものである。

【構成員】

- ・ 検討委員会は、公募市民等で構成されるため、「自分の住むところにバスを」という話は出て来やすい。地区ごとに代表を決めて、地区の意見をまとめて、ここにバス停を設置するという提案をしてもう方法でやっていただくと良い。

【会長】

- ・ 前回の検討委員会では、8小学校区のコミュニティ推進協議会の代表の方に地区の代表として出ていただいており、この方法は、引き続きやっていきたいと考えている。

【構成員】

- ・ このアンケートでバス停やルート等の細かいことを決めるわけではないと思うが、アンケートのねらいをはっきりさせておかないといけない。
- ・ 一つ目として、大きな課題になっている費用面について、はっきり聞けたら良いと思う。Bの質問項目で運賃は100円と書いてあるが、裏を返せば足りない分を市が負担しているとうことであり、それを市民が知っているかは、大きな違いがあるということである。それがあって、Dの項目とGの項目になるのかと思う。
- ・ 費用負担の話聞いておいて、違う内容の項目を挟んで、運賃の話聞くこととするのは、レイアウトが悪いように感じる。
- ・ Gの設問は、名鉄バスと間違えてないように、「ふれあいバスの運賃は、」とはっきり記載した方が良い。

【事務局】

- ・ レイアウトと記載について、修正する。

【構成員】

- ・ もう一つは、誰のために必要かということであり、まさに3ページのCの項目で皆さんが運行意義をどう思っているのか聞くことが大事だと思う。
- ・ Aの設問の外出目的の分け方とCの設問の利用目的の分け方に微妙な違いがある。結果として使えるものでないといけないので、買い物と娯楽を一緒にした方が良いのか、分けた方がいいのか、を含めて再考していただくと良い。
- ・ Cの設問では、あなた自身のことを聞き、あなた以外の人のもも聞いている。これは大事なことである。単純に「運行してほしいか」と聞くとみんな「ほしい」と答えるが、その人がバスに乗るという意味で答えたのではなく、「私の知人が乗るために走らせてほしい」という意味で回答する人が多くいる。
- ・ Cの設問、④番の「もしものため」というのは、わかりにくいので、もう少し具体性のある「たまには使うことがある」や「将来乗るかもしれない」というような聞き方にすれば、高齢になって運転免許証を返納したときを想定してもらえたりするので、回答者も答えやすいし、理解しやすいと思う。
- ・ Aの項目とCの項目は聞き方を統一した方が良い。

- ・ 誰の、どのような行動にとって必要かということが見えてくると、今後、その人はどこに住んでいて、どこに行きたいのかという検討につながっていくと思う。
- ・ ふれあいバスの役割を大きく捉えられるアンケートであると良い。

【構成員】

- ・ アンケートを実施するならば、できるだけたくさんの人にアンケートに答えていただいた方が良いので、8校区コミュニティ推進協議会でも配布と回収に協力できる。
- ・ 広報のアンケートページを活用する方法もある。

【会長】

- ・ 広報の最終ページがいろいろなアンケートになっているので、活用を検討したい。

【構成員】

- ・ 昨年度も少し話があったが、今は事業に関する評価指標がないので、今後の会議の中では、評価指標を設定して協議し、どういう状況にあるかを確認しながら、見直して行ってほしい。

【構成員】

- ・ 郵送用アンケートの設問Dの費用負担の選択肢で、市の負担にしか触れていないが、運賃を上げるという利用者の負担増加についての選択肢を設けても良いと思うがどうか。

【事務局】

- ・ 最初は、利用者負担増による市の負担軽減という選択肢もあったが、利用者の負担増分の収益で路線を増やす等利便性の向上までできるものではないことと設問が複雑になって答えにくくなることから、市の負担増減と利便性に絞った設問にしている。

【構成員】

- ・ 設問Dの費用負担から設問Gの運賃いくらまでならの話につなげていくなら、設問Dで運賃増による利用者の負担増についても触れて良いと考えた。

【事務局】

- ・ もう一度検討する。

【会長】

- ・ 指摘いただいた修正すべき点は修正し、検討すべき点は検討していく。
- ・ アンケートについては、来年度の5月に公共交通会議を開催し、最終決定し、実施したいと考えているので、よろしく願います。本日の会議以後もご意見等あれば、随時受け付けるため、ご連絡いただきたい。

(4) 高齢者の運転免許証自主返納促進事業について（報告）

【事務局】

- 資料9について、運転免許証自主返納促進事業の説明をした
- 意見質疑等

【構成員】

- ・ 高齢者の交通安全対策を目的とするものであるが、公共交通側にとっては利用促

進につながるので、ぜひ協力してお互いのメリットになるようにできると良いと思う。

- ・ 県庁内でも、地域安全課が中心となり、高齢者の交通安全の取組として、公共交通と連携して何かできないかという議論がされている。お互いの施策に役立つように連携できれば良いと考えている。

【構成員】

- ・ コミュニティバスの利用者のほとんどが高齢者であるのが現状だと思う。
- ・ アンケートでも65歳以上の方が運転免許証を返納した後の主な移動手段をどうするかという項目があるが、過去に警察の方でこれに近い調査を行ったことがある。その結果は、家族の送迎が1番多く、次いで、コミュニティバス等の公共交通利用、順に、タクシー利用、自転車、徒歩そして外に出ないとなった。
- ・ 昨年1年間の県内の死亡事故については、200名の方が交通事故で命を落とし、うち111名、55%の方が65歳以上の高齢者であった。今年は、21名の方が事故で亡くなっており、うち16名、70%の方が高齢者という状況である。年々高齢者の事故割合が増える中、高齢者同士の事故も増えている。
- ・ 先般、あま市の公共交通会議に出席したが、あま市では、運転免許証の返納者を対象に無料乗車パスを交付しているが、50人前後の申請しかなく、認知度の低さを感じる。あらかじめ資料等をお渡しいただければ、免許証返納の手続の時に警察署窓口で、住所地や自治体に応じたご案内等を行うことができる。

【構成員】

- ・ 67歳で運転免許証を返納した場合でも、70歳になった時に運転経歴証明書を持っていれば、対象になるということではないか。

【事務局】

- ・ そのとおり。

【構成員】

- ・ 利用者は、運賃の代わりに無料乗車券を入れることとなり、無料乗車券の枚数に応じて、市から運行事業者へ運賃の補てんをするということではないか。

【事務局】

- ・ 無料乗車分は、市が負担する。

3 その他 名鉄バスのダイヤ改正について

【構成員】

- ・ 津島市から依頼があったので、津島市内を走っている弊社の路線バスについて、3月17日土曜日に行うダイヤ改正の内容を説明させていただく。
- ・ バス業界は、ドライバー不足がかなり深刻になっており、弊社も例外ではない。運行に対して利用人員が見合っていない路線について、見直しをしていくものとしており、今回の改正は、そのような取組として実施するものである。
- ・ 対象となるのは、津島駅、バスの1番乗り場から出て、津島市役所の前を通り、日光橋を渡って、神守町へ抜けていく路線であり、朝6時から8時台のラッシュ時は、津島市内でも1便につき、15人から一番多い7時台前半のところでは、30人ぐ

らの利用者がいるが、10時を過ぎてくると、1便につき、5人、6人という利用実績である。現在は、乗車数が最も少ない10時以降の時間でも津島駅から20分ヘッドで出ているが、そこを30分ヘッドに削減をする改正となる。

- ・ 名古屋 - 津島線だけでなく、他市町村の弊社路線についても、利用人員が見合っていない路線について行う。利用実績の多い朝・夕の通勤・通学の時間帯は、なるべくダイヤを維持するように利用実績を見ながら運行を継続していきたいと考えている。
- ・ お手元の名鉄バスの愛知県内の全路線が記載された路線図をご覧いただくとわかるが、県内の多くの地域を弊社のバスが走っているが、ここにコミュニティバスの路線も加えると、愛知県内のバス路線は、非常に多い。便利であるので、鉄道も含めて、皆さんに是非、公共交通をご利用いただきたい。
- ・ 高齢者の運転免許証返納支援の話に関連して、利用促進のためにお話しさせていただくが、高齢者の方を対象とした「得々パス」というサービスを提供している3か月券、6か月券、1年券とあり、最初に一定金額を支払うと1乗車100円で利用できる。

【会長】

- ・ 便数の削減は、神守方面に抜けていくバスだけか。

【構成員】

- ・ 岩塚経由の方は、全く削減しないわけではないが、大きな削減はなく、1時間に1本はキープしながら運行する。

【構成員】

- ・ この地域では、バスロケーションシステムはやっているか。

【構成員】

- ・ やっている。近距離高速という高速バスを使う路線はできないが、名鉄バスの各バス停に表示したQRコードを読み込んでアクセスするとバスが何分遅れで運行しているかがすぐわかる。携帯電話やスマートフォンで活用できる。名鉄バスのホームページからも利用できる。

【構成員】

- ・ 通常のバス路線図は、形を崩して収めているところがあり、バス停名と順番はわかっても、詳細な位置まではわからない。実際の地図に載せてあるこのような路線図は、位置がわかるので良い。

【構成員】

- ・ 本当は、コミュニティバス路線も落とせると良いが、路線が多くなりすぎてしまうので、難しい。

【構成員】

- ・ コミュニティバスを運行している自治体が作成する個別の路線図に民間バスの路線を落とし込むと良いと思う。

【会長】

- ・ ダイヤ改正による利用者への影響を把握したいので、3月17日以降の利用実績について、改正後と改正前とで比較できるように利用者数等の照会を行うので、回答

をよろしく願います。

【構成員】

- ・ はい。

【会長】

- ・ ダイヤ改正の情報共有は、重要と考える。ダイヤ改正は、市民の移動手段に影響することであり、混乱を招く可能性があるため、市のほうにも情報提供いただき、この会議の中で情報の共有を図っていきたいと考えている。今後、ダイヤ改正等の予定があれば、改めて情報提供いただくよう願います。
- ・ 地域公共交通の問題は、本当に難しく、市民の皆様からも様々なご意見をいただいている。ふれあいバスについても、厳しい市の財政状況の中、より多くの方にご利用いただけるよう分析をしていくので、皆様には、今後ともご指導、ご協力をよろしく願います。